

新霊合祀・慰霊祭のご報告

11月9日(土)、宮崎大学教育文化学部附属小学校体育館において、平成25年度の「新霊合祀・慰霊祭」を行いました。本年度の新御霊は83霊で、ご遺族、ご来賓、木犀会会員、附属学校職員等160名余りで慰霊したところです。

文字による木犀会会報が年間1回の発行となりましたので、ここにご報告させていただきます。

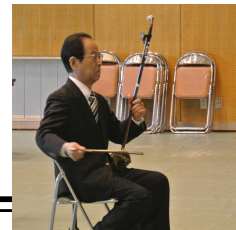
【 前日準備 】… 附属小・中学校の先生方や生徒が一生懸命準備してくださいました。



【 新霊合祀・慰霊祭当日の式次第 】

【 森会員の二胡の演奏 】

- 1 開式のことば (石塚 敦子副会長)
- 2 祭主合祀新霊進奏(緒方 明夫会長)
- 3 黙 禱
- 4 送魂追悼の調べ (森 浩司会員 S.30卒)
- 5 会長慰霊の詞 (緒方 明夫会長)



新霊合祀・慰霊の詞

木犀会 会長 緒方 明夫



菊香る、今日この頃、ご遺族をはじめご来賓ならびに多くの木犀会
会員参列のもと、母校宮崎大学教育文化学部附属小学校の体育館を齋
場として、平成二十五年度、木犀会招魂の碑に、只今、合祀されまし
た御霊に、謹んで慰霊の詞を申し上げます。
今年もまた、母校の跡地に安置されています招魂の碑を、
雨の日も風の日も寄り添い、静かに見守ってくれる木犀の木が、輝く
ばかりの金色の花を、緑鮮やかな大樹一杯に咲かせ、その靉郁とした
香を御霊に天高く届かせ、この齋場に誘ってくれました。
そして、また、あの太平洋戦争の宮崎空襲で一瞬にして爆死しまし
た師範学校附属小学校のいとし子十二名が、今年もまた、この齋場の
正面の横に安置されています供養の碑の前に並び、静かに御霊を迎え
てくれました。どうぞ御霊におかれましては、今一度、そのいとし子一人一人を優しく抱きし
め、温めてやってください。
このように誇られて、ここに合祀されました御霊は、先程、ご芳名を申し上げました八十三
名の御霊であります。

私達会員は、その御霊お一人お一人のご芳名に接すること、御霊の看護に身も心も捧げら
れたご遺族の方々の限らない寂しさに思いを致しながら、御霊のご生前の教育一筋に打
ち込まれた在りし日の面影や、折に触れて頂いた厳しくも身にしみる励ましのお詞など、さま
ざまな思い出が辿られ、限らない哀惜の情が、万感胸に迫っているところでもあります。
また、詞を添えますと、お迎えしたこの齋場は、特に、附属小中学校から「母校である大学
の附属学校も一体となって慰霊するの、合祀される御霊にとって、木犀会と母校との断たれ
ることのない心安まる絆の証であり、会場の設営は私達職員と児童・生徒が受け持っています。」
と、この上ないご提案により設営したものであります。ここに敷かれていますマット、並べられ
ている机や椅子は、職員はじめ、児童・生徒の皆さんが汗を流して整えてくれました。
このように、祭壇・齋場を整え、お迎えした御霊は、今はこの壇上で、木犀会として母校と
の断たれることのないこの強い絆に心安まれ、教師を日指して日夜励まされた学生時代や恩師・
先輩・後輩との思い出に、懐かしく想いを巡らされているのではないでしようか。
また、ご遺族の方々にとりましても、御霊が青春を謳歌し勉学に励まれた若き時代の学びの
場を訪れられ、感無量のこととご推察申し上げます。

加えて、目を転じますと、母校は、遠く学園木花台に移転して二十有余年になります。しか
し、その移転の記念樹として私達の木犀の木から株分けされ、教育文化学部の周りに移植され
ました若木は、今は緑鮮やかに大きく成長し、秋には靉郁とした香りをキャンパス一杯に漂わ
せ、次代を担う気鋭に満ちた学生の行き交う姿を、温かく見守り、励ましています。
このように、たとえ母校が遠く離れても、御霊が営々と築かれた母校との絆は、木犀の木を通
して脈々と引き継がれています。

更に、また、教育文化学部では、この絆と木犀会の百有余年の伝統を継承しながら、日進月
歩、今日の厳しく変化する社会の要請に対応した新しい学部づくりに邁進されています。
このように生々と活気にあふれる母校の現況に、私達木犀会も、学部との連携を一層密にし
て、母校の目的が十分に達成されるよう、会員全体となって協力・支援することを、誓い合
い励み合っているところでもあります。このことは、また、御霊の私達に託された、大きな願い
であると思います。

このように、祭壇におわします御霊の前に立ちますと、惜別の詞、託されたことへの誓いそ
して、木犀会の近況のご報告など、冬さるものではありません。

しかし、先人の詞に、故人を崇めるには、故人の飽くなき努力の足跡を尊び、学ぶことによ
って、崇めなくてはならないとあります。私達も、この詞を胸に刻み、御霊のご期待に沿える
よう日々精励することをお誓いいたします。

どうぞ、御霊におかれましても、天界よりよろしくお導き頂き、お見守りください。
最後に、既に、招魂の碑に鎮まれています御霊には、ここに合祀されます神霊を、木犀の香
りの中で、温かく迎えて頂き、共に、母校の揺るぎない発展と、同窓会木犀会の一層の充実を
お見守りくださるよう心よりお願いいたします。

それでは、改めて、御霊のおん安かれを祈りながら、ご遺族の皆様のご健勝とご多幸を心か
ら祈念し、慰霊の詞といたします。

6 遺族代表追悼の詞(代表 緒方 吉邦様)

追悼の詞



遺族代表 緒方 吉邦

本日ここにご来賓、ご遺族ならびに多数の木犀会会員ご参列のもと、かくも荘重荘厳な新霊合祀・慰霊祭を挙行していただくことは誠にありがたく感謝の気持ちでいっぱいでございます。

この一年間の物故者八十三名は、先に合祀された方々同様、宮崎師範学校、宮崎大学教育学部を卒業されたあと教職に携われた方々であり、在職中は児童生徒の学力向上・人格形成に多大なる功績を残されました。将来の国家社会を担う児童・生徒の教育という重要な任務を果たされたことは、深く尊敬してやまないところであります。しかしまた、重要な任務であるがゆえのご苦労やお悩みもあられたことかと存じます。ところで私たちは、現役の教師と教え子の間、あるいは卒業生が、かつての恩師を招いて催す同窓会などで、うるわしい師弟愛を耳にし目にするとき、本当に心とむ思ひであります。反面、時代背景を映したような心ないいじめや学校を取り巻く種々の不快な現象に触れるとき、胸の痛むのを覚えます。道徳をわきまえ、人間性豊かな社会の構築を願うばかりです。ともあれ新しく合祀される故人も、生前は社会全般や教育界に様々な思いを抱いておられたことでしょう。

私ごとで恐縮ですが、父は昭和八年師範学校卒業後、三十八年間小学校・中学校に勤務して参りました。少年時代、志を立てて選んだ道であり、父にとつて教職はまさに天職と思ひ、邁進したようであります。

教職時代の楽しい思い出はもとより、卒業した教え子との交流も多々ありました。父の死を新聞で知ったという六十五年前、当時小学一年生だった教え子の一人が都城から父の通夜にお出でいただいたときは大変ありがたく、その誠意に心を打たれました。また父は、若い時代に受け持った教え子が先の大戦に出征し、うち何名かが帰らぬ人となったことも気になっていたようです。今日の平和が恒久に続くように願つてやみません。

父は、百歳の長寿を全うし、本年五月他界しました。私にとつて七十七年もの長きにわたる父の存在があったことは幸いで、ありがたいことでしたが、それだけに父の生存中もつと孝行を尽くすべきだったと後悔する日々でもあります。

最後になりましたが、新霊合祀者の御霊の安らかならんことを心から祈念しますと共に、木犀会事務局の皆様のご尽力・ご苦労にも深く感謝し、簡単ながら遺族代表の追悼の詞とお礼に代えさせていただきますと思います。

今日は本当にありがとうございました。

7 献花

- (1) 会長
 - (2) 遺族
 - (3) 宮崎大学教育文化学部長(添田 佳伸学部長)
 - (4) 来賓
- (新地 辰朗教職大学院教育学研究科長 他12名)



【献花の様子】



- (5) 木犀会会員代表(川口 眞弘広瀬西小学校長)

8 招魂祭の歌 (指揮:釘田栄子会員)



【招魂祭の歌】



9 閉式のことは (石塚 敦子副会長)

～ 偲ぶ会・・・久しぶりに会って、話が弾んでいました ～

